

コミュニケーション Station

2026 JAN. Vol.139

～あなたと豊橋市国際交流協会をリンクする会報紙～

Essay
エッセイ



縁が紡いだ 2度目のマレーシア

時習館高校3年 内藤 希実

この夏、「TOYOHASHI Global Youth Challenge 2025」に参加し、約10日間マレーシアを訪れました。私にとっては2度目のマレーシア。初めて訪れるメンバーが多い中、私の胸には少し違った思いがありました。前回の経験で得た縁や学びが、今回どのように広がっていくのか、そして、新しい縁がどんな形で結ばれるのか、期待とともに、また違うマレーシアを見られる喜びがありました。

最も心に残ったのは、再び訪れた Jit Sin 校での体験です。初めて訪れたとき先生方や Jit Sin 校の生徒との交流はかけがえのない思い出となり、別れがとても寂しく感じられました。ところが、今回の研修でまた顔を合わせることができ、言葉にできないほどの喜びを感じると同時に、縁というものがいかに不思議で力強いものかと強く実感しました。前回の研修で結ばれた縁が、時を経て再びつながったことで、交流の大切さを一層感じました。Jit Sin 校での縁、そして今回新たに築いた縁は、これから的人生においても大切な財産になると信じています。

また、今回の研修を通じて、前回とは異なるマレーシアの姿を見るることができました。首都のクアラルンプールでは、街の中にイスラム教、仏教、ヒンドゥー教など多様な宗教施設が並び、そこに集う人々の姿を目にしました。モスクの礼拝に向かう人々や、色鮮やかなインド系の寺院、そして中華系のマーケットが同じ空間に存在している光景は、まさに多民族・多文化が共存するマレーシアを象徴していました。歩いているだけで聞こえてくる言語も、マレー語、英語、中国語、タミル語と実際に多彩で、その多様さに圧倒されると同時に、人々がそれを自然に受け入れて生活していることに深い感銘を受けました。

日本大使館を訪問し、外交官からお話を伺ったことも忘れない経験です。国と国をつなぐ外交の現場に触れ、国を越えて人と人をつなぐ仕事の意義を実感することができました。「相手を理解し、尊重する姿勢」という外交官の言葉は、今回の研修で自分自身が感じた事と重なり、大きな励みとなりました。外交官の姿はまさに私の憧れであり、「私もいつか、国際的な舞台で人や国を結びつける役割を担いたい」という夢がはつきりと形になり、私の将来への大きな指針となりました。

今回の研修を通じて、文化や価値観の違いを超えて学び合うことの大切さを実感しました。そして、それを可能にするのは、まさに「縁」だと感じています。この縁を大切にしながら、自分自身も新たな縁を結んでいけるよう努力を続けていきたいと思います。

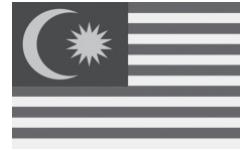
最後に、このような貴重な機会を準備してくださったすべての方々、そして共に学び合った仲間に心から感謝申し上げます。今回得たこの「縁」を胸に、これからも人とのつながりを大切に歩んでいきます。



バディとの集合写真(Jit Sin校にて)



中高生海外派遣事業 TOYOHASHI Global Youth Challenge 2025 Wrap-up !!



豊橋市の将来を担う若い世代が、「市の内外を新しい視点で見つめ、イノベーションの機会を創出する」そんな思いを込めて実施した中高生海外派遣事業が、このたび無事に終了しました。参加した16名の中高生らは、クアラルンプールとペナンの2都市を舞台に、10日間にわたり多彩なプログラムに挑戦しました。

生徒たちは企業・学校・官公庁への訪問、ホストファミリーとの生活を通して、多民族社会の在り方、若者のキャリア形成など、マレーシアがもつ多様な社会を体感しました。また、現地の学校では学生との交流や自分の住む町について相互にプレゼンをするなど、学校生活を共にし、異なる価値観の中で協働することの難しさと可能性を学びました。

異文化の中で戸惑いながらも、互いに支え合いながら行動する姿からは、頼もしさと成長を見て取れました。大きなトラブルもなく、全員が与えられたミッションをしっかりと遂行できたことは、参加者一人ひとりの責任感とチームワークの賜物です。

海外で得た視点や学びは、これから学校生活や地域活動にも、確かに息づいていくことでしょう。16名が持ち帰った気づきは、豊橋の未来の可能性そのものです。若い世代が世界を知り、地域を見つめ直し、新しい価値をつくり出す—この循環こそが、本事業の最大の成果と言えるのではないでしょうか。



~2026年度のチャレンジャーの皆様~

来年度も引き続き

“TOYOHASHI Global Youth Challenge”を開催予定です。

■日程 2026年7月下旬～9日間程度

■行先 マレーシア(クアラルンプール・ペナン)

■募集 広報とよはし3月号、協会SNS等

※2025年度の報告書が完成しました!!

協会事務局でご覧いただけます。



2

国際交流サロン～多様性の国マレーシア～を開催しました

第4回国際交流サロンを10月25日に開催しました。

新規事業「TOYOHASHI Global Youth Challenge」で研修講師としてお世話になったご縁から、石田ミミさんご夫妻にマレーシア料理の監修をお願いし、ライブキッチンではその腕前をご披露いただきました。マレーシアならではの多様なスパイスの香りが会場を包み込み、素材の味を引き立てた料理は、参加者の皆さんにも大変好評でした。

マレーシア紹介の前半では、講師より文化や歴史についてご説明いただき、後半ではTGYC派遣団員の今泉さんと鈴木さんに現地での体験を発表していました。参加者からは「マレーシア料理を初めて食べ、多様なスパイスの奥深さに感動した」「高校生の発表が自信に満ちてあり、大変分かりやすかった。マレーシアへの理解が深まった」といった感想が寄せられました。

「国際交流サロン」は市民や外国人を対象に世界各国の衣食住など身近な話題について学び、異文化に対する理解を深めるために年数回開催しています。次回は2月28日を予定しています。



関連記事は裏表紙へ ➔

GO FAR BEYOND

豊かな地球社会の実現に貢献します

 **MUSASHI**

武藏精密工業株式会社

本社/豊橋市植田町字大膳39-5

<http://www.musashi.co.jp/>



Report レポート

とよはしインターナショナル フェスティバル2025を開催しました

平和・交流・
共生のまち



令和7年11月9日(日)、とよはしインターナショナルフェスティバル2025を、豊橋市まちなか広場およびemCAMPUS一帯にて開催しました。あいにくの雨模様となりましたが、会場は多くの来場者でにぎわいました。

屋外ステージは雨のため予定していた場所から位置を変更しつつも、国際色豊かなパフォーマンスが披露され、会場を大いに盛り上げました。今回は、豊橋・トリート姉妹都市提携25周年を記念した展示やクイズを行い、その他にも日本語スピーチコンテスト、ワールドグルメ、フェアトレード・バザー、茶道体験、展示コーナー、こども縁日、スタンプラリーなど、多彩な企画を楽しんでいただきました。ボランティアの皆様、関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。



エスコーラの子どもたち絵画展

3

「日本ブラジル友好交流130年」をテーマに豊橋市内のブラジル人学校の子供たちへ絵画を募り、「エスコーラの子どもたち絵画展」を開催しました。その優秀作品を紹介します。

※敬称略

カンティニョ学園

国際ソロプチミスト
豊橋会長賞



「友情のルーツ」
アナ・レイザ・ポール・ド・ウラ

優秀賞



「ガラナと桜：ブラジルと
日本の絆」
アガタ・ニシヤマ・ハモス

イーエーエス ブラジル人学校

国際ソロプチミスト
豊橋ポート会長賞



「ブラジルと日本の
文化について考える」
リビア・ホンダ

優秀賞



「日本人とブラジル人が、
お互いの国の料理を味わう」
バルバラ・アヤフゾ・ダ・シリバ

協賛：国際ソロプチミスト豊橋、国際ソロプチミスト豊橋ポート



私のまちにSALA、暮らしとともにSALA



Sala サーラエナジー株式会社



〒440-8531 豊橋市駅前大通 1-55 サーラタワー

<https://www.salaenergy.co.jp/>



ホームページはこちらから





第27回 日本語スピーチコンテスト

11月9日、「第27回日本語スピーチコンテスト」を開催し、8か国出身の26名が出席しました。高校生以上一般の部で豊橋市国際交流協会会長賞を受賞した、川本 ラリサさん(豊橋西高校1年、ブラジル出身)のスピーチを紹介します。



「言葉の力」

「ボアタルジ」。皆さんは、この言葉を聞いたことはありますか。これは、ポルトガル語での「こんにちは」の言い方です。

豊橋では、どこに行っても、外国語が聞こえてくるのが普通です。実は、豊橋の

約6パーセントは、ブラジル、ベトナム、フィリピン、インドネシアやネパールなど様々な国から来た人で構成されています。豊橋の人口約36万人中2万人も外国人が住んでいるのです。日本人の友達から、「ポルトガル語で何か教えて」とか、「いつかブラジル行きたい」などと言われると自分の国の良さが周囲に伝わっていると感じます。でもこれを言われるまでにはたくさんの時間がかかりました。なぜかと言うと、小学校2年生から6年生まではブラジル人とばかり話していたからです。私にとってその方が安心でした。日本語を話すときに間違えたらどうしよう、ばかにされたらどうしようという恐れで話せませんでした。この不安をなくし、そして自分に自信を持つには「言葉の壁」を壊さないといけなかったのです。

壁の反対側を初めて見られたのは、中学校1年生でした。国語の時間に決められたテーマについて1分程度の発表をすることになりました。みんなにとってはただの発表と思われることですが、私は言葉の壁の前に立っていました。15分が経っても私は1文字も書けなかったのです。そして発表の時は、黙ってみんなの前で立っていました。話そうとしても言葉が出て来ないまま授業が終わりました。その時はクラスメイトにいじめられると思いました。でもその反対にクラスの人たちが原稿を作ることを手伝ってくれました。そして、次の授業で上手に発表することができました。その時に気づいたことは、どんなに一人で日本語の勉強をするよりも、日本人と実際に話す方が力がつくということです。これは日本語にかぎらず、どの言語を学ぶとしても、実際にその国の人たちとコミュニケーションをとる方がより早く話せるようになると思います。

また、私の日本語力がどれだけ上達したのか気づいたきっかけは中学校3年生の時でした。今まで3人家族だった私が急に4人家族になりました。母が妊娠したのです。6か月経ってから、ようやく妊娠が明らかになりました。生まれるまで3か月しかなく、とても大変でした。また、病院の検査から退院までは、私が通訳として付いて行っていました。そのため、学校を休むことや早退することが多くなりました。もちろん面倒だと思ったことはたくさんありました。ですが、母が安心している様子を見たり、検査でお腹にいる弟の心臓の音を聞いたりしたため、そういう気持ちは消えていったのです。

私が今までいろいろな人に通訳して来て気づいたことは、言葉の力の素晴らしさです。通訳と言っても、学校生活での単純な通訳から人の命に関わるような責任重大な通訳まで、様々な場面で務めましたが、共通して言えることが1つあります。それは、通訳すなわち言葉は人と人を繋ぐということです。かつて日本語が上手に話せなかつた私がクラスメイトと繋がったように、また、妊娠中の母と病院の先生、そして私たち家族が繋がったように、言葉によって人は人と繋がることができます。

言葉を話すということは、単にその言語を覚えるだけではありません。新しい友情が生まれたり、新しい文化を学んだり、そして人生を変えたりするための扉を開く鍵なのです。あなたが学ぶすべての言葉は、人との繋がりの種です。たとえ、外国人と話しをするときも決して諦めないでください。人と人が繋がるのに国籍は関係ありません。難しくても、相手の母語で一生懸命に話したら、必ず心で繋がると信じています。それが、「言葉の力」なのです。



ゆたかな地域社会づくりに奉仕する

地元とともに
蒲郡信用金庫

会長 竹田 知史
理事長 岡本 聰哉
蒲郡市神明町4番25号



この街の暮らしを守る、この街の経済を強くする。

\みんなにエール!/

豊橋信用金庫



第27回日本語スピーチコンテスト上位入賞者

（小中学生の部 6名）

- ・豊橋市国際交流協会会长賞
スズキ サムエル（東部中3年）
- ・豊橋市教育委員会賞
タシロ アンナ（東陽中3年）
- ・特別賞
マスダ ペドロ（東部中3年）
- ・豊橋みなとライオンズクラブ賞
小野 セリカ（東陽中3年）
- ・同 上
ガンジン ユミ（福岡小6年）
- ・同 上
ダン ナム（豊城中3年）

※敬称略

（高校生以上一般の部 6名）

- ・豊橋市国際交流協会会长賞
川本 ラリサ（豊橋西高校1年）
- ・豊橋市教育委員会賞
ホシャ ルイザ（御津あおば高校1年）
- ・特別賞
ナキリ ジュリア（豊橋西高校2年）
- ・豊橋みなとライオンズクラブ賞
シャンソン ユニス（御津あおば高校1年）
- ・同 上
セルヴィ エカ サントソ（会社員）
- ・同 上
スンガ マーク ジャスパー（豊橋西高校2年）

*上記12名が、豊橋市公会堂で開催される第16回東三河日本語スピーチコンテストに出場します。

第16回東三河日本語スピーチコンテスト



東三河5市（豊橋、豊川、蒲郡、新城、田原）に在住し、各市から選ばれた外国人が、地域での生活や日頃感じていることを日本語で発表します。

オーレリウス・ジーカス駐日リトアニア共和国特命全権大使による特別講演も開催されます。

●日 時：令和8年2月8日（日）

開場12:30～ 開演13:00～

●場 所：豊橋市公会堂

（豊橋市八町通2-22）

●入 場：無料（申込不要）

●問合せ：東三河日本語スピーチコンテスト実行委員会事務局

（公財）豊橋市国際交流協会

☎ (0532) 55-3671



教えて!? インフォピア

豊橋市外国人総合相談窓口「インフォピア」には日々多くの相談が寄せられています。相談員がよくある事例を紹介しますので、ご活用ください。



5

◆雇用・労働について

Q：仕事中にけがをしました。外国人にも労災保険は適用されますか。

A：外国人労働者（不法就労者も含む）も、労災保険の対象となります。労災保険では、仕事中や通勤中のけが、病気、障害、死亡に対して給付を受けることができます。

労働者を一人でも雇用している会社は、労災保険に加入する義務があります。もし会社が労災保険を適用してくれない場合は、会社の所在地を管轄する労働基準監督署、または労働局の外国人労働者相談コーナーに相談してください。

なお、「技能実習」の在留資格で入国している技能実習生には労災保険が適用されますが、「研修」の在留資格で入国している研修生には適用されません。

※詳しくは「労災保険に関するQ&A（厚生労働省）」をご覧ください。https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/faq/rousaihoken/index.html

人財力”で應えます。

働く人の気持ちも、職場の想いも大切に。



（人材派遣業・有料職業紹介）
〒440-0843 愛知県豊橋市東幸町字大山9-4
TEL: 0532-64-7512 FAX: 0532-740153

よく、何の会社ですか？と聞かれます。

しの のめ ざ
株式会社 東雲座カンパニー

企画も照明も音響も、舞台演出もしますし、野外舞台も設営できます。映像も作れますし、印刷物も作ります。企業や公共自治体の展示デザインもやっています。オリジナル演劇を作って、脚本・演出など…総合プロデュースもします。舞台セットも回り舞台まで作ってしまいます。さらには小説なども出版しています。—— こんなのが、できる？に応える「 // カン！」です。

Report レポート

トリー・姉妹都市提携25周年記念事業 青少年海外交流事業 サマー・イングリッシュ・チャレンジ 2025

東三河在住・在学の中高生を対象に、夏休み期間中の3日間、青少年海外交流事業「サマー・イングリッシュ・チャレンジ 2025」を実施しました。

本市姉妹都市のアメリカ・トリー・大学出身ALTや外国人留学生たちと3日間を共にする、全編英語による研修で、少年自然の家の飯ごう炊さんを含むディキャンプから、現地トリーの高校生とのオンライン交流や豊橋の魅力を世界に発信するプレゼンテーション制作まで、さまざまなアクティビティを楽しみながら、実践的な英会話を体験しました。

参加者からは、「実際に外国の方々と会話することができて、会話のテンポや反応、話し方など、体験しながら学ぶことができた。」、「この3日間は、一日中英語に触れるができる特別な機会になりました。」、「自分の語学力についていけるのか、最初は緊張していたけれど、先生たちや周りの雰囲気がとても良かったので、たくさんのことを学べ、良い体験にすることができました。」、「自分の英語力のなさに気付かされて悔しい気持ちでいっぱいなので、学校で頑張るのはもちろんで、その他にも自主的に勉強をして、英語力を高めたいと思いました。」、「将来海外に留学したり、いつかは働いてみたりしたいなと思っていましたが、その思いが一層強くなったと感じました。」などなど、意欲あふれる、積極的な感想が数多く寄せられました。

実施日：2025年8月6日(水)～8月8日(金)
9:00～17:00

参加者：東三河在住・在学の中・高校生20名

実施会場：まちなか図書館インターナショナルスペース、
少年自然の家

ALT出身国：アメリカ、フィリピン

留学生出身国：マレーシア、インドネシア、エクアドル、メキシコ

オンライン交流校：アメリカ・トリー市アーリーカレッジ高校



知る・考える・行動する 国際協力月間2025開催報告

6

今年も国際協力について考える「国際協力月間」を開催し、多くの方にご参加いただきました。

とよはし地球体験学校（8月5・6日）

今年は、ベトナムとエジプトの文化を体験しました。

ベトナムは料理に挑戦！キムさんに揚げ春巻きなどの家庭料理を教えていただきました。



クイズを通してエジプトについて学び、パピルスを使ったしおり作りを体験しました。

国際協力映画上映会（8月17日）

「ピース・バイ・チョコレート」

移民としてカナダで新生活を始めたシリア難民家族の実話を描いた作品を上映しました。

上映後には、シリアでインターンとして勤務されたJICA中部の山本剛氏によるアフタートークを行い、映画だけではわからないシリアの現状について理解を深めることができました。

また、emCAMPUS FOODのご協力により、映画にちなんだ料理も提供されました。



豊橋に住む、70カ国以上の方々にお話を伺う番組!

とよはし・サ・ワールド

[放送日時]毎週火曜日 12:45～13:00
毎週土曜日 12:45～13:00(再放送)

[パーソナリティ]ケンヂブリッチ



【ティーズ】
FM 84.3MHz
やしの実FMアプリ



無料アプリ
ラジオで聴いてね！

会社も家庭もゴミの困った解決します！

遺品整理・不用品でお困りの方は是非ご相談を



かたづけ丸の(有)マルイ紙業

秘密厳守 無料お見積り 地域密着型の安心

〒441-8077
豊橋市神野新田町タノ割38番3

お電話1本で
即日対応
0532-32-3255 かたづけ丸
受付時間 9:00～18:00

Column コラム

豊橋市国際交流員のコラム

今号は、豊橋市国際交流員タスラック・ジャスティンさんの連載コラムをお休みし、当協会外国人相談員のヒエンさんが担当します。

皆さん、こんにちは。1月に入り、すっかり寒くなっていますね。寒さが増すと「外に出るのがちょっと面倒だな」と思う一方で、冬ならではの楽しみがたくさんあることに気づきます。今日は、私が感じる「冬の楽しみ方」を母国ベトナムと日本の違いを交えて紹介します。

日本の冬といえば「こたつ&おでん」

日本に来て心を奪われたのは、まずこたつとおでんです。こたつはまるで人をダメにする魔法の箱。足を入れた瞬間に「もう動けません宣言」をしたくなります(笑)。そしておでんの湯気と出汁の香りは、心の芯まで温めてくれる魔法のスープ。私にとって冬は「こたつ+おでん」が絶対セット。これは、ベトナムに帰ると必ず食べる“フォー”と同じくらい、季節の儀式になっています。そんな私にとって、まずおでんを食べてからこたつに入り込む瞬間は、冬の最高の幸せなんです!

ベトナムの冬の楽しみ

一方、ベトナムの冬は日本ほど厳しくはありませんが、私の出身地の北部ではしっかり冷え込みます。そんなときの楽しみはやっぱり屋台グルメ。焼きトウモロコシや焼きサツマイモ、サクサクのさつまいも揚げやバナナ揚げを味わいながら手をこすり合わせて温まる時間は、まさにベトナム流の“冬のこたつ”です。湯気の向こうにはいつも笑顔があり、寒さもどこか楽しく感じられます。

そして忘れてはいけないのが「鍋」。冬の食卓に鍋は欠かせません。週末に友人や家族と集まるときも、お正月(ベトナムは旧正月)のお祝いでも鍋は定番。食材は豊富で、熱帯の野菜をたっぷり使い、味付けは日本と少し違いますが、食べ方はほぼ同じです。ただ、日本に来て驚いたのは鍋

の「締め」でした。ベトナムでは麺で締めるのが決まっていますが、日本ではご飯を入れて雑炊にするスタイルもある



ベトナムの鍋『ラウ』

さりげなく、丁寧なおせっかい。

 **イクモ**

株式会社イクモ

快適なオフィス環境づくりをお手伝いしています。

豊橋市南旭町78番地
☎ 0532-56-0766



レティトウヒエン(ベトナム出身)

豊橋市国際交流協会 外国人相談員



るのですね。これには「なるほど!」と感心してしまい、まるで自分の常識がアップデートされたような気分でした。

しゃぶしゃぶで初めてお餅を鍋に入れて食べたときも新鮮で、「なぜ今までこの発想がなかったのか!」と感動しました。

「鍋」はまさに“冬の団らんの主役”なのです。具材や締め方に多少の違いはあっても、鍋を囲めば笑い声と湯気で部屋いっぱいに温かさが広がるのは同じですね。

冬のファッションあれこれ

日本の冬は、ダウンジャケットにマフラー、ブーツ等は定番で、とてもおしゃれ。街を歩いていると、みんなコーディネートに気を配っていて「さすが日本、センスがいいなあ」と感心します。ところが、来日したばかりの頃に驚いたのは、真冬でも若い女性がミニスカートを履いていること。「えっ、寒くないの?」と心の中でツッコミを入れていました。

でも日本でしばらく暮らしてからベトナムに帰ると、今度は逆にベトナムの冬のファッションにびっくりします。(母国にずっといたら気づかなかったのですが)厚手のアウターを着ているのに、足元はなぜかサンダル!しかも靴下なしの人も!「寒いの?暑いの?」とまたツッコミたくなるスタイルですが、これもベトナムならではのユーモア。考えてみれば、夏が蒸し暑い国なので、サンダル文化が根付いていて、冬でもその便利さを手放せないのかもしれません。

つまり、各国にはそれぞれの冬の楽しみ方があるだけで、決して不思議でもおかしくもなく、ただ単に違うだけなのです。

冬がくれるもの

冬の楽しみ方は国や地域によってさまざまですが、どこでも共通しているのは、寒さが人を近づけるということです。こたつで家族が集まるのも、屋台で友人と笑い合うのも、冬だからこそ生まれる温かさなのです。

ベトナムで育ち、日本で暮らすようになった今の私にとって、冬の三種の神器は、こたつ・おでん・そしてフォー。皆さんもぜひ、自分だけの“冬の定番”を見つけてみてください。寒さがちょっと好きになるはずです。

法人向け通販最大手

オフィスの困ったに応える

学校・保育園市場NO.1

笑顔の介護のお手伝い

ASKUL

Smartoffice

スマートスクール

スマート介護

株式会社 豊橋タイプ

豊橋市松葉町2-5

Tel 〈0532〉 53-5111(代)

Fax 〈0532〉 53-6783

Information

インフォメーション

第5回
国際交流サロン

14歳で海外を知った私が 中国で働くことを選んだ理由

14歳のときに初めて海外に触れた経験は、講師の価値観と進む道を大きく変えました。異文化との出会い、そこで感じた衝撃やワクワク、そして“もっと広い世界で働きたい”と思うようになった理由――。

この講座では、海外で働くことを選択するまでのリアルなプロセスと、キャリアの選択肢を広げるためのヒントをお伝えします。海外に興味がある方、これから働き方に迷っている方、新たな一歩を探している方に、きっと気づきと勇気を届けられる時間です。

- とき 令和8年2月28日（土）
13:30～14:50
- ところ emCAMPUS STUDIO セミナールームC
(豊橋市駅前大通2-81
emCAMPUS EAST 5F)
- 講師 彦坂仁菜さん
(元在中国日本大使館派遣員)
- 内容 海外で働くためのリアルな体験談をお話します。
- 定員 入場無料、どなたでも 40名（申込順）
- 申し込み 2月2日（月）午前9時より、豊橋市国際交流協会webページ、ちらし掲載の2次元コードよりお申込みください。

■問合せ (公財) 豊橋市国際交流協会
☎ (0532) 55-3671 ✉ tia@tia.aichi.jp

豊橋市外国人登録者数の状況

国籍	人数	割合(%)
ブラジル	8,619	38.42
フィリピン	5,395	24.05
ベトナム	1,949	8.69
インドネシア	1,370	6.11
中国	1,163	5.18
韓国・朝鮮	1,046	4.66
ペルー	684	3.05
その他(77ヶ国)	2,207	9.84
総人數(84ヶ国)	22,433	100.00
豊橋市総人口	363,680	
外国人登録者数の割合(%)	6.17	

令和7年12月1日現在

豊橋市国際交流協会 賛助会員募集中！

豊橋市国際交流協会は、地域における草の根の国際交流を進めるため、賛助会員を募集しています。各種イベント案内のはか語学講座受講料割引などの特典があります。新規入会者にはエコバッグ、継続会員には協会オリジナル記念品を贈呈します。

- 年会費／個人会員 一口 3,000円
法人・団体会員 一口10,000円 ※加入日から1年間有効。
- 申込方法／直接協会に持参いただきか銀行・郵便局振込みで。
詳しい内容などについては協会にお問い合わせください。

お問い合わせは…

公益財団法人 豊橋市国際交流協会

〒440-0888 豊橋市駅前大通2丁目81 emCAMPUS EAST 2階
☎ (0532) 55-3671 http://www.toyohashi-tia.or.jp

イベント企画・制作・運営のトータルプロ
EVENT PRO Wide

株式会社 イベントプロワイド
〒440-0858 豊橋市つづじが丘3丁目39番地1
■TEL: 0532-21-5956
■FAX: 0532-21-9956
<https://www.prowide.co.jp>

(まちなかマルシェ会場)

プラス・ワンからはじまる可能性。
共和印刷株式会社
本社 〒441-8042 豊橋市小池町36番地1
tel.0532-46-3281 fax.0532-46-3285